

平成28年度学校評価結果報告書

桶川市立桶川中学校
校長 田代 孝治

1 目指す学校像 明るく元気、誇りに思える桶川中学校

2 評価結果

評価基準 A：ほぼ達成した（8割以上の達成状況） B：概ね達成した（6割以上8割未満の達成状況）
C：あまり達成していない（3割以上6割未満の達成状況） D：ほとんど達成していない（3割未満の達成状況）

領域	No.	評価項目	自己評価		学校関係者評価
			評価	説明及び学校の考え（・具体策）	
組織・運営	1	校務分掌の各主任を中心に、分掌内で課題を共有し、前年度の反省を生かした計画を立てて実践する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○概ね良好であった。その都度主任の声がけで部会を開き、検討・確認することができていた。 ○各分掌よる行事の計画・立案時に、反省の予定まで組み込んで実施した。 ○行事の後の職員会議には取組内容等反省を提案し、次年度は「例年通り」を一步発展させていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎若い教員同士、切磋琢磨していて感じがよい。 ◎生徒と教師の関係も良く、笑顔で授業がすすめられている。 ◎超過勤務にならないように効率化をはかってください。（残業時間の削減）
	2	校務サーバを活用した職務の引き継ぎを充実させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○機会をとらえて、校務分掌の職務の内容をデータとして保存できている。 ○パソコンが変わり、データ自体は整理されてきているが、個人持ちのデータもあるため、次年度への引継ぎを確実にする。 ○6年をワンサイクルとしてそれ以前は削除する。 	
学習指導	3	各教科の指導で、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させる。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○教科部会では、きめ細かい継続的な教材研究を通して、基礎的・基本的事項の精選と構造化を図っている。 ○繰り返し学習や復習の時間を確保して徹底した。 ○生徒アンケート「授業に関心・意欲をもって取り組んでいる」の項目において「そう思う」「だいたいそう思う」が90%を超えているので、今後もわかる授業を目指し、補習等も計画していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎全国・県学力状況調査の結果等によりネガティブになっている生徒がいるので、自己肯定感をもてるような指導をしてください。 ◎数学の授業を参観して生徒の苦手意識を感じた。一方で理科の手作り教材に生徒が、地震波を身をもって感じる授業も参観でき教師の教科指導に対する思いを感じた。
	4	各教科等の指導では、生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から、言語に関する能力を育成する上で必要な言語活動の充実を図る。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科とも書く活動や話す活動を意図的に時間と場面を工夫して取り入れた授業展開を行った。 ○課題解決のための小グループでの話し合いや発表活動を積極的に授業に取り入れ実施した。 ○思考力・判断力・表現力の向上のために、アクティブラーニングやICTの研修をすすめる。 ○全国・県学習状況調査の分析を深め、さらに学力向上に努める。 	
	5	各教科等の指導では、生徒が見通しをもって学習に取り組むとともに、学習内容を振り返る活動を計画的に取り入れるように工夫する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科とも、毎時間前時の振り返りから授業に入り、本時の学習内容を確認し、目当てをもって授業を展開することができた。 ○次年度の年間指導計画の作成、自己評価カードの項目を見直し、より良いものにしていく。 	
生徒指導・教育	6	生徒指導上の諸課題やいじめ等の問題に対して組織的に対応し、きめ細かく指導・支援を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な生徒指導日より等、情報の共有ができています。共通マニュアルをもとにチームワークを持って諸問題に対応できている。「概ね達成した」と言えるが、積極的な生徒指導について教員のさらなる共通理解が必要である。 ○生徒が落ち着いている状況に甘んじることなく、 	<ul style="list-style-type: none"> ◎いじめ防止対策基本方針にしたがってすすめられている。いじめの被害者にも加害者にもならないよう保護者と一緒に取り組んでく

相談			生徒指導の研修の機会を作り、危機感を常にもって対応、指導にあたる。	ださい。 ◎一斉道徳の実施（全校同じテーマの道徳の授業）と全校クリーン活動（登校時地域のごみ拾い）は継続して取り組んでください。 最近、地域に缶やたばこの吸い殻が落ちていないと感じていた。生徒には、手袋をするなど衛生面での指導もお願いしたい。
	7	生徒の「心」を育て、適切な判断力を養うことによって、安心して安全な行動がとれるようにする。	B ○生徒指導、道徳部会を中心に、講話朝会や一斉道徳を実施し、全校で「心」の教育を推進することができた。 ○SNSでの不用意な発言等によってトラブルが生じている場面もあるので、思いやりの心の成長をはかっていく。	
健康教育	8	健康教育の指導の充実を図るため、年間指導計画（学校保健・食に関する指導）に基づいた指導を行う。	B ○学校保健委員会や薬物乱用防止教室の実施、保健集会、給食集会などの委員の呼びかけにより健康面や安全面に気をつけている生徒が多いので「ほぼ達成した」と考える。 ○けが（特に骨折）生徒が多かったので、危険予知活動の徹底を図る。	◎骨折などのけがが多いのは、経験不足の面もあると思うが、継続して危険予知活動の指導をお願いしたい。 ◎登下校での安全指導も継続してください。交通ルールやマナーを守る指導をお願いしたい。
	9	施設・設備の安全点検を常時実施し、事故を未然に防止するよう努める。	B ○点検表が改善され、安全担当からの呼びかけも増えて事故を未然に防止するという意識が高くなった。 ○点検表を速やかに提出し、修繕の要望を継続していく。	◎土日の部活動は、教員が少ないので注意をしてください。事件発生時には複数で対応するようお願いしたい。
	10	危機管理マニュアル及び防災マニュアルの改善を図る。	B ○適切な危機管理マニュアルが整備されている。また、年度当初に全職員で確認が行われた。 ○年3回の避難訓練のうち最後の訓練では、前回と内容や方法を変えて抜き打ち訓練を行うことができた。・取組を継続する。 ○雷や竜巻の対応についてもマニュアルを作成し、避難訓練の項目に取り入れる。	
学習環境	11	機能的、美的な掲示教育を進め、校内に活気と潤いをもたせる。特に、教室経営の核である教室掲示を重視する。	A ○各学年、各教室とも掲示が工夫されている。校内のいたるところに美術等の展示物があり充実している。生徒が作成した行事や班新聞等の掲示物も増えている。「ほぼ達成した」と考える。 ○生徒会や委員会活動の様子が見える掲示物を考えていく。	◎私語なし清掃については、道徳の心の教育とあわせて指導をお願いしたい。 ◎階段の壁の清掃など生徒に考えさせ、アイデアをもって取り組めるとよい。
	12	除草及び花壇等を整備し、花いっぱい美しい環境をつくる。	B ○学校応援団や保護者の協力により、定期的に除草や花の植え替えが行われている。今年度から花の水やりなど生徒が活動に参加することができた。 ○地域、保護者、教員、生徒がともに活動できる機会を設けていく。	
	13	清掃は全生徒、全職員で一斉に行い、学校美化を推進する。	B ○清掃を全校一斉に取り組む姿勢はできているので、さらに自発的に考えて行動する生徒を育ていくために、私語なし清掃をすすめていく。	
教職員の資質向上	14	職員相互の尊敬・信頼・協力を高め、働き甲斐と張りのある明るい職場をつくる。	B ○相互のコミュニケーションや情報の共有を含め、話をしやすい雰囲気を作られている。 ○職員室の整理整頓や指導の言葉遣いを含め教員としてモラルを意識した職場づくりに努める。	◎教員の言葉遣いについては、生徒にさんづけするなど丁寧な言葉遣いは必要であるが、逆に危機センサーが働かない。また打たれ弱い面も出てくるので、時にはさんづけせずに指導するなど両面で進めてください。
	15	研修の機会や場を計画的に設定し、指導力の向上に努める。	B ○組織として定期的・計画的に研修を進め、それを生かした授業改善を行うことができた。 ○研修内容の精査をして、時間の確保に努める。	

					◎幼稚園でも主体性を育てるために自分で考えるような言葉がけに努めている。
家庭・地域との連携	16	学校応援団を計画的に運営する。	A	○学校応援団の活動が年々計画的に活発に活動が進められている。 ○校務分掌上に位置づけて、計画・立案や呼びかけに教員も参加する。	◎読み聞かせや本の修繕を行う図書ボランティアについては、PTA や学校応援団の活動に加わるのはよいことです。
	17	学校公開や家庭・地域との双方向の意見交換の場（紙面、会合（保護者会・懇談会等）を設定し、より密な連携を実施する。	A	学期に1回以上の学校公開実施と毎月学校だより「榎音」を地域へ配布した。保護者アンケートの意見を生徒の指導に生かすことができ、保護者会や学級懇談会等により家庭との連携もとれた。 ○発信だけでなく、情報を受け止めることにも一層意識を高めていく。	
その他	18	「歌声響く桶中」を目指して、心が震える感動を味わわせ、豊かな人間性を育成する。	B	○校内音楽会や70周年記念式典など「ふるさと」を中心として歌声を響かせる機会があり、よく取り組んでいた。 ・生徒自身が「歌声の響く桶中」を実感できるよう、日頃の活動の中に歌声が響くようにしていきたい。	◎全校クリーン活動については、継続して取り組んでください。 ◎地域の誇りとして桶中生への指導を今後も続けて欲しい。
	19	「きれいな桶中」を目指して、様々な美化活動を通して、桶中の一員としての自覚をもたせる。	B	○2年生のクリーン活動、落ち葉掃きなど美化活動を行う機会が増えた。 ○2年生のクリーン活動を発展させて、全校で取り組めるものにしていきたい。	